

令和2年度学校評価について

令和2年4月25日

| 本年度の 重点目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上 2 自立と社会参加を促す教育活動の推進 3 「笑顔」のある安心・安全な学校づくり 4 関係機関や保護者等との連携による教育活動の推進 5 センター的機能の充実 | | |
|--------------|---|---|--|
| 項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 留意事項 |
| 小学部 | 児童の病気や障害の状態及び学習の進度に応じて学習の目標や内容を設定し、児童が自信をもち、達成感を味わいながら、笑顔で学校生活を送ることができるようにします。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 児童・保護者及び医療関係者等との相談をもとに、児童の学習の進度や特性を把握します。 2 個々の実態に応じた学習目標・内容を設定し、分かりやすく効果的な学習方法を工夫します。 3 学習の目標を明確にし、児童とともに学習の成果を振り返ることで、自己の成長が実感できるようにし、児童が主体的に学習に取り組めるように支援します。 | <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を大切にし、言葉を通じて自分のものの見方や考え方を深められるように支援します。 ・児童の学習の場をICT機器でつなぎ、自分の意見を伝え合うことによって、お互いの考えを深め合う環境を整えるようにします。 ・教育活動の状況や児童の成長の様子を保護者や医療関係者に伝え、学校と保護者及び病院が協力して児童の成長を支援できるようにします。 |
| 中学部 | 基礎的・基本的な学力の習得を確実に行うとともに、集団で活動する中で、自らの課題に気づき、個性の伸長を図り、他者とよりよい人間関係を築く力を養います。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の学習状況を適切に把握し、学習集団を工夫するなど、きめ細やかな指導を行います。 2 ICT機器を活用し、校内教育、BS学級、施設内教育学級で同時双方向での授業を行い、集団で学び合う環境づくりをします。 3 集団活動の中に意見を交わす課題を設け、対話的、協同的な活動を通じた合意形成の経験を多くの生徒ができるよう支援します。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の願いや目標の達成のため、支援方法など担当者間で共通理解を図ります。 ・家庭、医療機関、前籍校との連携、情報共有を図ることで、実態把握に努めます。 ・同時双方向通信での授業がスムーズにできるよう教師間での連携を図ります。 ・集団学習の中で、他者と自分の考えの違いなどに気づき、自己理解に繋がるよう、生徒の気持ちに寄り添った支援に努めます。 |
| 高等部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 各教育課程の指導内容及び指導方法について検証し、改善を進めます。 2 自己実現を目指し、集団の一員として生きる力を身に付けます。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 登校できない生徒に対し、同時双方向型通信を活用して、健康状況等の把握を行う。 2 生徒の達成感や自己肯定感の向上につなげるため、個々の学習状況に応じた分かりやすい授業を行います。 3 生徒一人一人の実態を的確に把握し、高等部職員全体で取り組むべき課題という共通認識をもち、授業力の向上及び適切な指導が実施できるよう、研修に努めます。 4 挨拶や言葉遣い、他の生徒への思いやりなど、人との関わり方を学べるように支援・指導します。 5 集団での活動場面において、生徒の実態に応じた役割分担を明確にし、他の生徒との協働により、達成感や成就感を味わえるように指導します。 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員全員が生徒個々の実態を的確に把握し、幅広い視野、長期的な展望をもって適切な指導します。 ・ICT機器を積極的に取り入れ、授業や各行事等で有効に活用することで、学習効果を高めます。 ・生徒が自己の病気や心身の状況に応じて、意欲的に学習に取り組むことができるよう、褒めて伸ばす指導を推進します。 ・生徒個々の短期的な目標や課題を、職員全員が理解し、学校生活全般を通じて、生活指導面でもPDCAサイクルを図ります。 |
| 施設内教育 | 児童生徒が安心して学べるように、保護者及び医療機関等との連携を保ち、個に応じた指導の工夫と充実に努めます。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 保護者、病院、前籍校等と協力し合って学習環境を整え、児童生徒の実態に合わせた学習保障に努めます。 2 児童生徒の進路の参考とするため、病棟に入院している高校生の学習状況について情報を収集します。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドサイド授業の実施や短期入院の児童生徒の転入について速やかに対応します。 ・情報収集については、病棟の理解と協力を得ながらすすめていきます。 |
| 訪問教育 | <ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の一人一人の実態に応じた授業を実施します。 2 病院等の関係機関との連携を密にし、児童生徒が安心して学べる環境作りに努めます。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の興味・関心や学習の状況、病状を的確に把握して授業を実施します。 2 担当者間で、児童生徒の情報を共有し、児童生徒にあった目標・内容・方法を検討し支援をします。 3 電話や病棟との連絡ノート等を活用し、病院等の関係機関との情報交換を積極的に行い、児童生徒にとって安心して活動できる環境作りに努めます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の好きなことや得意なこと、強みに着目した支援に努めます。 ・定期的に児童生徒の支援を検討する機会を設け、より良い支援を更新できるよう努めます。 ・主治医等の病棟関係者とは、定期的に情報交換を行えるような仕組み作りを進めます。 |
| 総務部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 魅力ある教育活動の情報発信に努めます。 2 保護者同士や学校とのつながりを感じられるPTA活動を進めます。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 本校、施設内、訪問教育と連携を図り、学校だより・校内掲示等を利用して、活動や取組について具体的に発信していきます。 2 保護者と連携し、社会の状況にも対応しながらPTA活動や研修会の内容を検討していきます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動が生き生きと伝わるよう、写真やコメント、レイアウトなどを工夫します。 ・これまでのPTA活動のよさを土台とし、更に社会の状況を考慮し、つながりを意識して計画を進めていきます。 |
| 教務部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 2学期制の実施に伴い、授業、儀式等を本校児童生徒の実態に応じた内容で実施します。 2 新学習指導要領に沿った、主体的対話的で深い学びを目指し、指導力の向上を図ります。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 授業計画の見直しを行い、評価の方法や、評価の結果を授業へどう生かすかを担当者で話し合います。 2 始業式終業式の儀式的回数を減らし、授業時間を確保し、内容の見直しを行います。 3 各部、各教科における授業改善を心がけ、指導力向上のための研修機会を設けます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭及び関係機関との情報交換を密にし、各教育形態や他の校務分掌と連携します。 ・ICT機器を積極的に授業に活用していきます。 ・学校休業日による未学習の単元を補充できるように、指導内容の精選、指導体制や指導方法の工夫を行ないます。 |

| | | | |
|--------------------|---|--|---|
| 自立活動 | 3 児童生徒が自己の自立について考えると同時に、自立を目指す上で必要な力は何かを教師とともに考え、主体的にその力を身に付けることができるよう支援します。 | 4 児童生徒が自己の心身の状態を踏まえ、自己理解を進めたり、自己管理の力がついたりするような活動内容の工夫を行います。 | <ul style="list-style-type: none"> 活動の実施にあたっては、安心安全な環境設定に努めるとともに、ワークシート等を活用して、児童生徒が活動の成果を実感し、自信がもてるような支援に心掛けます。 病弱教育における自立活動実践事例の情報発信を教師に対して行い、児童生徒の自立を促すために有意な活動について検討を行います。 |
| 生徒指導部 | 児童生徒の防災に対する意識を高めるとともに、安全・安心に学校生活を送ることができるような学校づくりに努めます。 | <ol style="list-style-type: none"> 避難訓練や定期的にシェイクアウト訓練を実施し、児童生徒の防災への意識を高めていきます。 不審者対応訓練を実施し、緊急対応マニュアルの見直しをします。 毎週、各部会で児童生徒の情報交換を行うとともに、年2回、児童生徒を対象とした「心のアンケート」を実施します。 | <ul style="list-style-type: none"> 避難経路や避難場所等の確認、定期的にシェイクアウト訓練を実施することで、防災に対する意識を高められるようにします。 警察署員を講師に招き、不審者対応訓練を実施したり、緊急対応マニュアルの見直しを学校全体で取り組んだりすることで、児童生徒に安全かつ的確な支援ができるようにします。 日頃から職員間で情報共有を図り、いじめの早期発見に努めます。いじめ不登校対策委員会を開催し、いじめの防止、早期対応に学校全体で当たります。 |
| 保健体育部 | 教育環境の整備や安全指導を充実させ、児童生徒の健康管理を適正にし、安全で安定した学習ができるような環境作りと保健指導の充実に努めます | <ol style="list-style-type: none"> 児童生徒の健康状態の把握や事故防止に努め、児童生徒個々に応じた緊急時の対策等の情報を職員に周知徹底し、共有しながら、より安心で安全な教育環境を整えます。 医療的ケアや食物アレルギー対応の実施については、保護者や関係する機関との連携を深める中で、児童生徒や教職員が、お互いに安心して学校生活を送ることができるように支援します。 日常の健康と安全に対する意識を高め、家庭や病棟と連携を取り、感染症対策や食習慣の重要性を周知していきます。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の情報を職員で共有し、緊急時のスムーズな対応に備え、安全指導の徹底を図ります。 安心・安全な対応ができるよう、委員会等で十分に審議し、その情報を共有し、保護者や関係機関との理解と協力を得ながら全校体制で行います。 全児童生徒に毎朝の健康観察を行うと共に、給食配膳時も健康観察を実施します。各種便りやメール配信を介して、児童生徒保護者への情報発信に努め、感染症対策の徹底や食習慣の重要性を周知していきます。 |
| 進路指導部 | 児童生徒の実態と児童生徒・保護者のニーズを踏まえ、適切な進路決定に向け進路指導の充実に努めます。 | <ol style="list-style-type: none"> 学年や教育形態に応じて説明会や懇談等を実施します。児童生徒・保護者のニーズを把握しICTを活用した情報を提供する中で、進路決定に向けた課題や支援方法について共通理解を図ります。 地域や関係機関との連携を図り、見学、体験、実習等の活動や、多様な進学・就労への個別支援が充実するよう努めます。 希望する進路先・居住地関係機関に対して児童生徒の実態について情報提供することで児童生徒への理解を深めていただくよう努めます。 | <ul style="list-style-type: none"> 就労、進学指導に関する情報収集に努め、学校行事等と関連を図りながら説明会や懇談を実施し、児童生徒、保護者に対し情報提供をします。 必要に応じて、本人、保護者、医療関係、学校関係、その他関係機関（児童相談センター、生活支援センター等）を交えた話し合いができるよう、連携を心がけます。 希望する進路先に対して必要に応じて連絡、訪問するなど、より密な関係を構築できるよう積極的に働きかけます。 |
| 教育支援部 | <ol style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態や一人一人の教育的ニーズに応じ、きめ細やかな支援を行うため、教職員研修の充実を図ります。 各関係機関との情報の共有化、連携の充実を図り、病弱特別支援学校としてのセンター的機能の推進に努めます。 | <ol style="list-style-type: none"> 各教育形態で行われるカンファレンスについて、その意義の確認や定義を見直し、カンファレンスの在り方について検討を進めることで、児童生徒の教育的ニーズや教育課題に対応する方策を共有し、教職員の資質の向上を図ります。 医療、教育、地域との「連携の流れ」について見直しや確認を行い、スムーズな連携を一層推進するとともに、次年度開催予定のセミナーや研修会の企画を行います。 | <ul style="list-style-type: none"> カンファレンスについての検討は、日々の業務や各部会等の中で取り組みます。 関係機関との連携や担当者との情報交換を密にし、地域に根ざした支援の提供ができるセミナー・研修会を企画します。 |
| 教育情報部 | <ol style="list-style-type: none"> 児童生徒がICT機器を活用できる環境を整えます。 職員の業務の効率化や職務のスリム化により、授業準備等の児童生徒と向き合う時間の充実を図ります。 | <ol style="list-style-type: none"> コンピュータ室のパソコンやタブレット端末等の利用環境を児童生徒の実態に応じて見直し、すべての教室でICT機器を効率的に活用できるように環境整備を進めます。 コンテンツの拡充及び校内の研修により指導力の向上を目指します。 ネットワークやグループウェア（情報共有システム）の活用により職員間の効率的な情報共有を進めます。 | <ul style="list-style-type: none"> 愛知県総合教育センターと連携を図り、校内のネットワーク環境の改善とともにベッドサイド学級や施設内教育、訪問教育等それぞれの環境でICTの取り組みを進めていきます。 セキュリティに配慮し、安全性の高いシステムの構築に努めます。 |
| 学校関係者評価を実施する主な評価項目 | <ol style="list-style-type: none"> 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上ができたか 自立と社会参加を促す教育活動が推進できたか 「笑顔」のある安全・安心な学校づくりができたか <ul style="list-style-type: none"> 提案・交渉・合意形成型アプローチ、ジェントルティーチングを進められたか 関係機関や保護者等との連携による教育活動が推進できたか センター的機能の充実ができたか | | |

